

南湖におけるホンモロコの産卵状況調査

米田一紀・磯田能年・大植伸之

1. 目的

南湖はかつてホンモロコの主要な産卵場であったが、近年、産卵がほとんど確認されない状況が続いていた。このため、滋賀県では種苗放流、水草刈り取りおよび外来魚駆除を行い、南湖での再生産を回復させる取り組みを行っている。本項では南湖での産卵状況調査の結果を報告する。

2. 方法

- ① 産卵量調査：旧草津川河口から下笠造成ヨシ帯間のヤナギ林（調査区間：約 153m。以下、下笠調査地点）および赤野井湾内のヤナギ林（調査区間：約 212m。以下、赤野井調査地点）において、3 月 16 日～7 月 27 日に計 20 回、週 1 回の頻度で産卵量を調査した。
- ② 産卵範囲調査：南湖湖岸域のうち、産卵に適した基体（主にヤナギ類の根およびヨシ株の基部）が確認された 18 地点で、5 月 13 日～5 月 22 日に産卵の有無を確認した。

3. 結果

- ① 下笠調査地点では 3 月 23 日～7 月 6 日、赤野井調査地点では 3 月 23 日～7 月 20 日の期間に産卵が確認された。昨年と比較して、調査期間中に確認された卵の総数は両地点とも増加したが（図 1）、産卵盛期は昨年よりも 3 週間程度遅れた。代表として赤野井調査地点の結果を図 2 に示す。この事象は水位の上昇による産卵適地の減少が要因の可能性がある。
- ② 産卵範囲の調査では、調査地点 18 地点のうち 12 地点でホンモロコの産卵が確認された（図 3）。南湖東岸側では近江大橋付近、南湖西岸側では大津市茶が崎地先まで産卵が見られており、南湖のほぼ全域でホンモロコの産卵が確認された。

これらの結果を 2020 年度日本魚類学会年会で発表した。

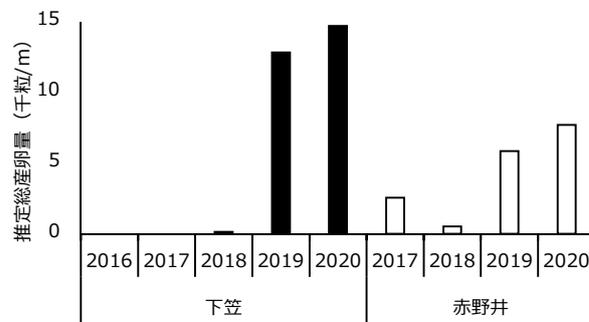


図 1 各調査地点における総産卵量の年変動

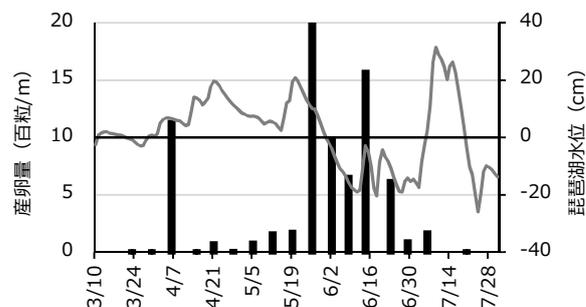


図 2 赤野井調査地点における産卵量の推移

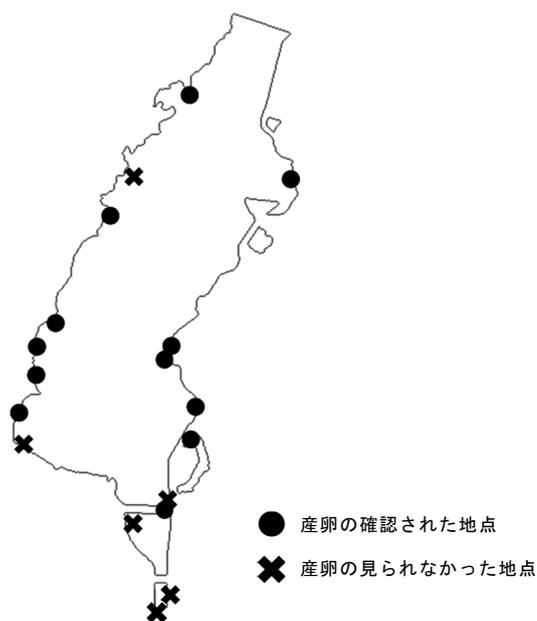


図 3 琵琶湖南湖における産卵範囲調査